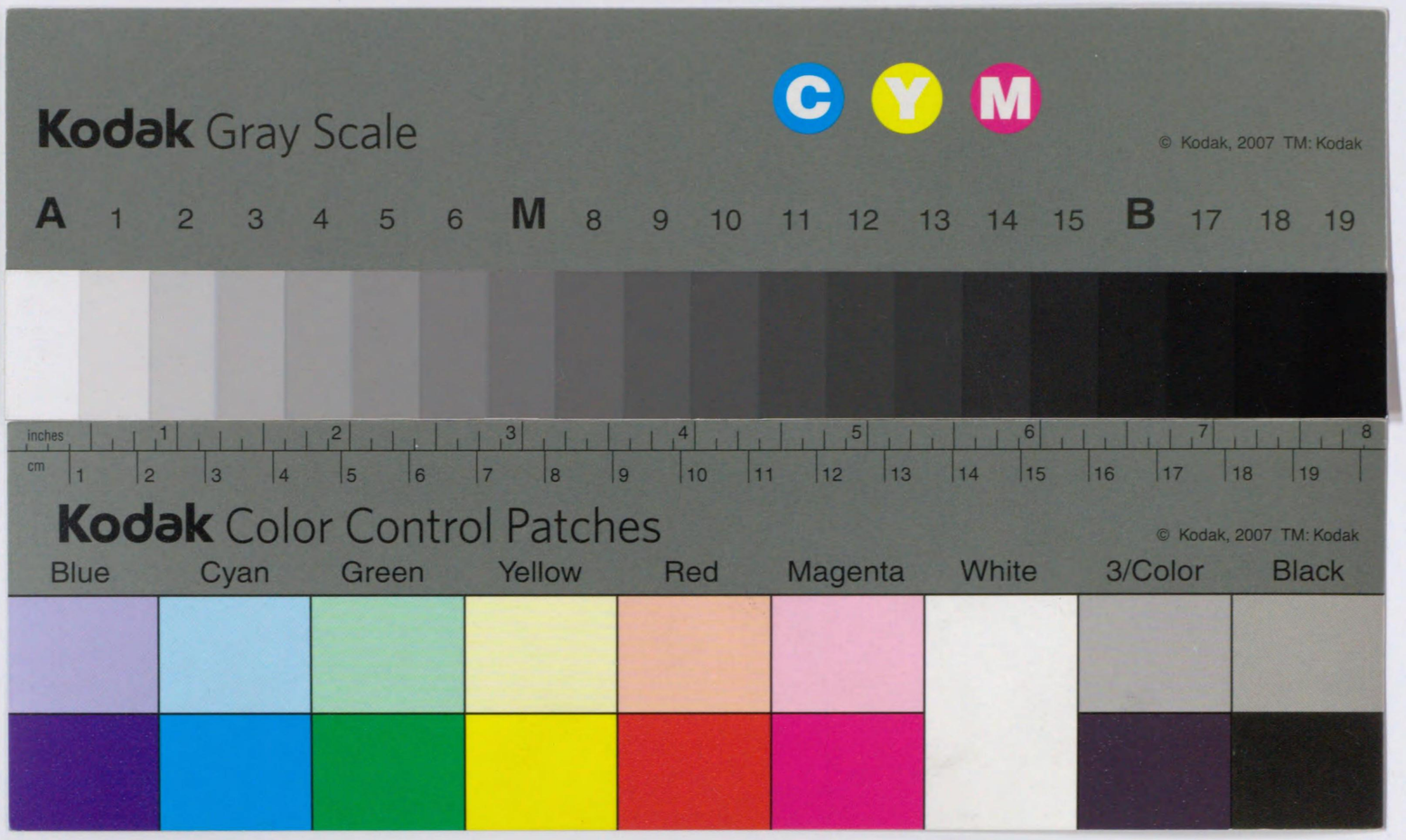


524-675口
1200501494022
524
675口

本邦最大の秋芳洞

上口県

（第三版）

本邦最大の
カルスト地方

秋吉臺

（第三版）

山口縣

524
675

本邦最大の
カルスト地方

秋吉臺

第三版

昭和十三年・文部省・納本

524
675

緒言

一　本書は昭和二年七月に初版を、昭和四年五月に第二版を、今茲に第三版を出したるは　秋吉臺　を初めて踏査せられんとする各位の參考に資せんとするに外ならず

一　本臺地は九ヶ町村を包含する　本邦最大の「カルスト」臺地　にして地表地下共に變化著しく容易に各地の現象を一々記載し得ざるを以て本書に於ては全く其概要を掲ぐるに止めたり

一　本臺地には史蹟名勝天然紀念物保存法に依り指定せられたる天然紀念物八件あり、是等に就て詳細を極めんとするには本縣刊行の史蹟名勝天然紀念物調査報告の參照を要す

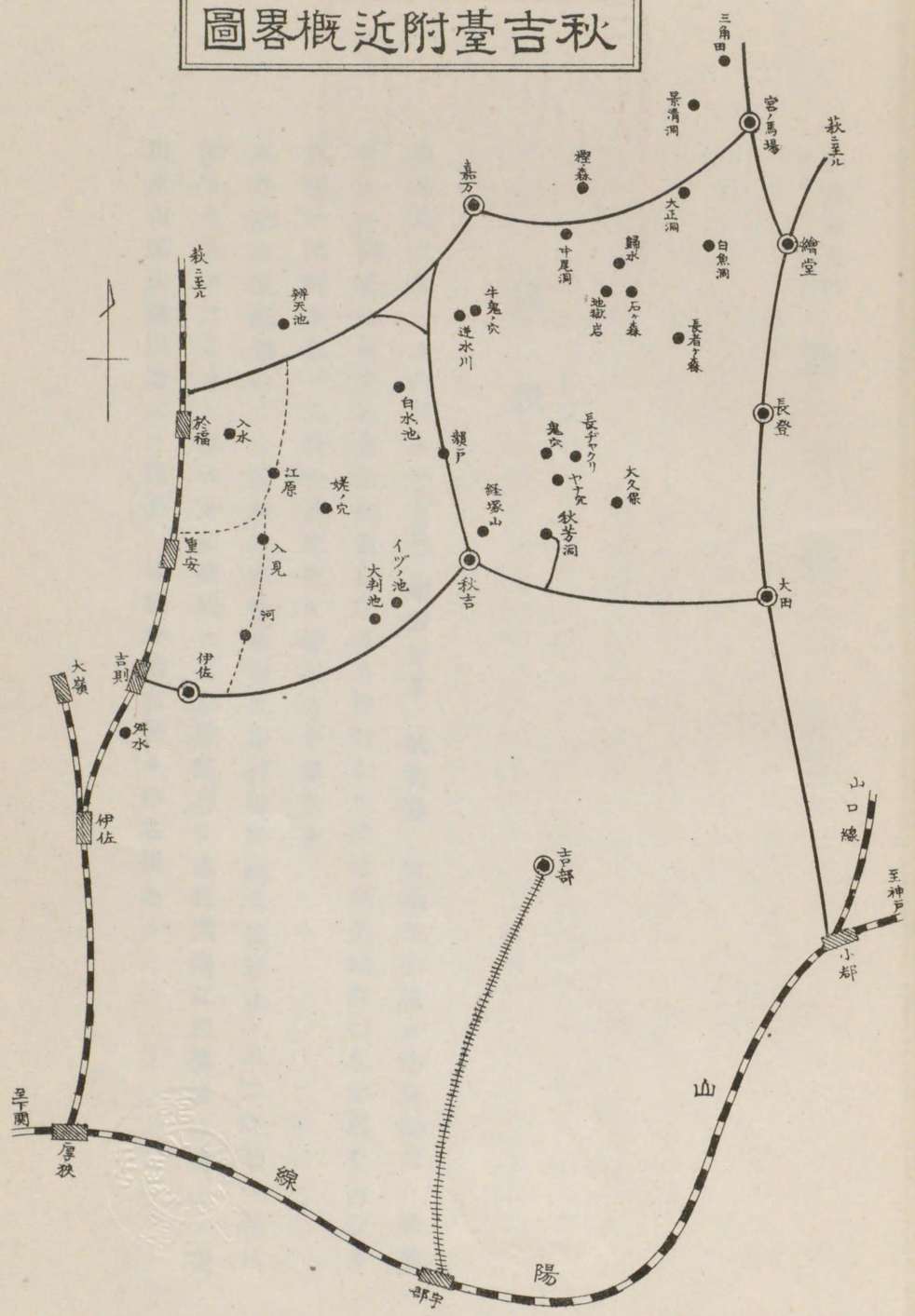
一　本書は岩根本縣史蹟名勝天然紀念物考査員の調査執筆したるものなり

目次

	頁
總說	一
ドリネ	四
ウバアレ	七
ポリエ	九
石灰洞	一三
ポノール	二〇
地下流	二五
湧泉	二七
カレンフエルド	三〇
鑛物	三四
特產物	三六

臺地探究者の準備……三八
探究の道筋……四〇

秋吉臺附近概略圖



本邦最大のカルスト地方

秋吉臺

（第三版）

總說

本邦最大のカルスト（Karst）地方なる秋吉臺は臺地の略々中央部に秋吉村あるが故に臺地の名を代表したるものにして山口縣美禰郡の北半部を占むる東西一四粁南北一二粁の高原性を帶ぶる平原なり

本臺地は美禰郡の大田、伊佐、赤郷、秋吉、共和、別府、於福、大嶺、岩永の二町七ヶ村に跨りて地方により馬コロビ臺、桐ヶ臺、地獄臺、石ヶ森、於福臺、江原臺、岩永臺、中ノ臺、出水山、彌山、猪出臺、穴ヶ窪臺 等部分的に種々の名稱あり

臺地の略々中央部は　厚東川　の上流北より南に向つて貫流し臺地を東西に二分するが故に地點表示の便宜上、川の東を秋吉臺、西を江原臺とも呼ぶ

臺地は二疊石炭紀（Permo—Carboniferous）に屬する石灰岩の厚層に依りて構成せられ該紀に於ける動物化石（Fusulina, Fusulinella, Schwagerina, Neoschwagerina, Schellwienia, Verbeekina, Doliolina, Sumatrina, Lonsdaleia, Chaetetes, Waagenophyllum, Nagatophyllum, etc.）等を多種多樣に包含し中生代の夾炭層及第三紀の頁岩、第四紀の粘土を以て被へる所あり

本臺地は往昔に於て動物の遺骸が海底に略々水平又は緩傾斜面に累積成生せしものにして其後海底の隆起して陸地となり地表地下共に著しき水蝕の結果今は到所に緩漫隆起の小丘大丘連續伏起するも若し本臺地を繞る桂木山、雁飛山、權現山又は鯨ヶ岳等の山巔より之を瞰下すれば臺地の大勢は北より南に緩傾斜を爲す一帶の平原なることを認め得べし

臺地の平均高度は海拔三五〇米にして最高部は四二五米、最低部はドリネ又はポリエの底部にして一八〇米前後なり

本臺地は永年の間、絶ゑざる水蝕を受けて甚だ老齡期に到達し臺地表土の大部分は空氣中の炭酸瓦斯を溶解したる弱酸性の雨水にて石灰岩を溶解せる殘滓たる赫土（Terra rossa）を以て被ひ地下は地下流の爲にカルスト地方に特有なるドリネ　ウバアレ　ポリエ　ポノール　洞穴　地下流　湧泉　等到所に發達し臺山上には赫土の間より石柱林立の奇觀たるカレンフエルドを表はす所少なからず

秋吉臺は古生代の終に當り大規模の押し被せ（Decken）が行はれ南方の部分が北方の部分に被はれ、古き地層が新しき地層を被ふが故に、新しき化石を下層に、古き化石を上層に見るとて大正の末年頃大に學界を賑はしたることあるも本論は尙ほ暫く研究の餘地あるもの如し

石灰岩は迸發岩の接觸作用を受け種々の接觸鑛物を表はし或は種々の鑛床を作るが故に臺地を繞りて古來有名なる鑛山多し

左にカルスト現象に就て順次簡單に之を述べん

ドリネ（Doline）

ドリネは其形狀恰も漏斗狀又は擂鉢狀を呈する大なる窪地にして其數は一々計上すべからざれども二三萬を下らざるべし、此地方に於ては地鉢又は穴とも呼ぶ、其存在の狀態は略々脈狀を爲して連絡するは地下にありし大なる石灰洞が陷落して地表にドリネの列を作りしものなり、ドリネは極めて大にして深きものと淺きものあり、或は小にして深きものと淺きものあり、又た頗る古きものと新らしきものあり、或は現に成生しつつあるものあり、或はドリネの底部降雨毎に沈下しつつあるものもあり、ドリネの側壁は急傾斜を爲すものと然らざるものあるは石灰洞存在の位置の高低に依るものなり

ドリネは單獨に存在するものあり或は二個連續したるもの三個連續したるもの或は珠數狀に長く多數連續したるものありて底部は圓形又は楕圓形を爲し耕地

と爲すもの多し、其土壤は頗る肥沃にして古來無肥料にて午蒡、大根、麥、芋、蕎麥、桑、桐等を栽培し、午蒡は大田午蒡と呼ばれて此地方の名產たり、土地肥沃なる理由は降雨毎に臺地上の枯草をドリネに多量流入するが故なり、ドリネは所在地の高さと深さの關係に依り底部より水を湧出するものあり、或は水を吸込むものあり、例へば　共和村の大クボ、大田町の鳥の水、女郎水　の如きは其好例なり、共和村の　歸水　の如くドリネの底部が小地下流に出合ふが如きものは其例尠なし

ドリネの有名なるものを　香合、鬼穴、ヤナ穴、鷹穴、長ヂャクリ、歸水、小僧ヶ淵、大シブリ　等とす

香合　は共和村の東方にある大なる　ドリネ　にして形狀實に整然たるものなり、其口徑七〇〇米を超へ深さ二〇〇米に達す、底部には一戸の農家ありて之に適應する耕地と樹林あり又た湧泉を見る

鬼穴　は秋吉村の最も北方にある大なる　ドリネ　にして底部の耕地は其附近にて面積最も廣大なり、其東壁は棚岩と呼び　カレンフェルド　良く發達す

ヤナ穴は秋芳洞に近き所にある楕圓形の深き大なるドリネにして底部に耕地と樹林あり、ヤナ穴なる名稱の起原明かならず

鷹穴はヤナ穴の西方にある圓形の深き大なるドリネにして底部に肥沃なる耕地あり

長ヂャクリ秋芳洞の西方に當り略々之に平行する一帶の長きドリネは地溝の如き形狀を爲し延長八〇〇米を超ゆ、之を長ヂャクリと呼ぶ、底部は此地方重要なる耕地なり

歸水は共和村青景の東端にある深きドリネにして口徑約六〇〇米、深さ周緣より二〇〇米、底部には樹林ありて、此所に幅二米、長さ四〇米の小川ありてドリネの南壁に源を發し北壁に吸込む、此川は水量多く降雨の關係にて北より南に向つて逆に流るることありと云ふ、其水は實に清冷にして如何なる旱魃に會ふも渴水することなく臺地上重要なる飲料水にして有名なるものなり、大降雨の際にはドリネは一面の深き池と化するを特徴とす

小僧ヶ淵は大田町長登の北方樹林中にある小規模なれども深きドリネにして底部は常時には畑地なれども降雨期には深く水を湛ふることあり、往時一僧侶が小僧を伴ひ此地を通過せんとせし時に當り怪物の出でて小僧を淵中に引入れて溺死せしめたることありしとの傳說あるより此名あり

大シブリは共和村青景地獄臺の中央にある大なるドリネにして林立する石柱のカレンの方向は大部分其底部に向ふが如し、底部には豐饒なる土壤深ければ耕地として使用せらる

モメラ窪は伊佐町の東北隅なる臺山上にあるドリネにして底部より盛に湧水し水田を灌漑し水は洞穴に吸込む。

ウバアレ (Uvale)

ウバアレは往時、地下に長大なる洞窟を成生したるも漸次落磐となりて地表上

にドリネの連鎖を作りしものなりしが漸次年月を經るに從ひ各々隔壁を失ひ一帶の谷の如き形狀となれるものを云ふ、故に其底部も　ドリネ　と同樣に畑地として使用せらる、底部の低きものは川となり或は水田となるものあり

其二三の好例を擧ぐれば左の如し

・瀨戸・　秋吉村と別府村との間にある延長約二粁餘の峽谷を爲す地にして始ど臺地を東西に二分し共和、別府二村の水を集めて南流する厚東川の上流、北より南に向つて此所を流る、川の兩岸由勢相迫まる狀態に依り此名あり、此　ウバアレ　は往時此所に巨大なる石灰洞ありしが洞は漸次陷落して成生せしものにして洞內を流れたる往時の地下流は今は地表を流るる川となりしものなり

・水溜・　大田町の北方にある　ウバアレ　にして、南北に伸び延長約一粁なり、此所に小川ありて北より南に向つて流れ地中に吸込まる、大降雨の際には其一部に沼を造る地あるが故に此名あり、此所に隆盛なりし大田鑛山あり、此　ウバアレ　の東側なる　花ノ山　は石灰岩を逆發する花崗岩より構成せらる

・江原・　別府村江原臺にある大なる　ウバアレ　にして南北に伸び延長三粁餘に

達す、底部には數十町歩の畑地と水田と數十戸の農家あり、最低部には小川あり て二個の　吸込み　と呼ぶ　ポノール　に呑込む、大降雨の際には此所に集まり來る水は囂々たる物凄き音を立てて吸込み杉丸太等の巨大なるものも忽ち渦卷き影を沒す此地方は糖狀石灰岩の產地多ければ到所に其採堀場あり、又た此地は本縣屈指の產馬地方として知らる

ポリエ (Polje)

ポリエ　は石灰平原とも呼ぶべきものならんか、數十又は數百の　ドリネ　が水蝕に依りて各々隔壁を失ひ相結合したるもの又は數條の　ウバアレ　が相交叉し又は結合せし廣大なる所にして此所に多數の人家と耕地を有し川は其地に發源して其地に沒するが如き所を云ふ、秋吉臺上其著しきものを擧ぐれば　赤郷

村赤ノ郷田、同村三角田、同村佐山、嘉万及別府に跨る大盆地、秋吉、岩永本郷、等なり

赤郷村赤ノ郷田は戸數二百餘を有し此所に學校、村役場、病院、小市街地及廣大なる耕地ある長徑三粁、短徑二粁半の盆地にして此所に川あれども流末は洞穴中に吸込まれて地下流となる、此地に松原洞、白魚洞、龍宮洞等有名なる洞穴多し、大降雨の際には一面の湖水と化することあり、此所の碇なる地名は此地方洪水に對する方言なり、郷田の西方に立石と呼ぶ地ありて小丘上に石柱孤立し岩石崇拜時代の風を遺せる所あり、是れドリネとドリネとの間に取殘されたる一本の石柱なり

三角田はミスマダと讀む、赤郷村猪出臺の東北方にある長徑一粁、短徑三〇〇米の楕圓形を爲す深きポリエにして底部に田地七八町歩あり、此地の三角田川は流程一粁餘にして地下に瀧を造つて景清洞の北口なる三角田洞口に流入す、天保七年六月十二日の豪雨大洪水の際、水車小屋流れて三角田洞内の岩角に留まり塵芥及流木等之に堆積して全く洞内を閉塞し川水は漸次增加して三角田部落一面を湖水と化し人家悉く浸水せしより爾來住民大に恐れて今はポリエの東北部に於ける高地に移轉せり、此地の西南方三角田洞口の直上ニ猿田と呼ぶ所ありて嚴冬の黎明に當り壯觀なる七條の霧柱垂直に數十米吹上る現象あり此地方にて之を猿田の霧吹きと呼ぶ

佐山は赤郷村の西北部にあるポリエにして此所に人家十數戸と耕地あり此地に景清洞、大正洞、姥ヶ穴あり、景清洞と大正洞との間に小川ありて惡水川と呼び大正洞口の少しく東方に於て地中に吸込み影を沒す、佐山に於ける人家の井戸は一定の深度を越へて深く堀下ぐれは水は地下に流入して一滴の水も求むる能はざるに至る

嘉万及別府ポリエ　このポリエは秋吉臺地に於ける最も廣大なるものにして長徑五粁、東西三粁に達し人家千餘戸を有し廣大なる耕地あり、又た此所に村役場、神社佛閣、學校、病院及劇場あり、この ポリエ の南端は瀨戸ウバアレに通じ秋吉ポリエと連絡す

岩永本郷　岩永村の西方にあるポリエにして此所に多數の人家と耕地あり

又たイヅ池　大番池　と呼ぶ大湧泉ありて主要なる灌漑用水となる。

石灰洞窟

臺地上には水の通路たる川無きが故にドリネ　ウバアレ　ポリエ　等に集まりし水は　ポノール　即ち吸込洞を造つて地下を潛流す、地下流は化學的にも物理學的にも浸蝕を縱ままにして流下し岩壁を破つて吐水洞を造る、故に洞穴には水を吸込むものと水を吐出するものあり、洞内廣濶なるものは夏期冷風を吐出する風穴となるものあり、或は冬期嚴冬の朝濃霧を吐出するものあり、臺地には大小數百の石灰洞存在し未踏のものも尠からず、就中有名なるものを擧ぐれば　秋芳洞　景清洞　大正洞　中尾洞　白魚洞　龍宮洞　兼清洞　鹿の井手の大穴　等とす

洞内　鐘乳石　石筍　石柱　豆石　其他石灰華に依りて奇觀を呈するもの多し

秋芳洞　秋吉村廣谷にある洞窟にして赤郷村郷田の水を集めて　白魚洞　に吸込み秋吉臺の地下を流るること約六粁にして洞口に四段の瀧を造つて洞外に吐出する地下流に依り成生したるものなり、本洞は洞内幹道の延長一粁半、洞床より天井まで平均の高さ四〇米、幅六〇米、洞内には石灰華より成る山あり、川あり、淵あり、急湍あり、瀑あり、加ふるに　鐘乳石　石筍　石柱　石灰華發達す。本洞は古より洞内に入る者あらば惡病に罹るものと信せられしが天保の初年旱魃に當り請雨の際、里人松明を作つて洞内深く探究したる以來初めて世に知らるるに到りしものなり、大正の末年近く洞内の闇黑を照すに電燈を設備したれば遠近よりの觀客多し、青天井　長淵　百枚皿　高棧敷　千町田　傘づくし　石瀧　黄金柱　黑谷　六地藏　屑の明星　等は洞内屈指の名所にして就中　黄金柱　は甚だ偉觀なり、洞内夏は凉しく冬は溫暖なり、本洞は嘗て東宮殿下の行啓を仰ぎたることあり。大正十一年十月天然紀念物として指定せられたり

景清洞　秋吉臺の東北隅なる赤郷村猪出臺にあるものにして又の名　赤の穴とも　長生洞　とも云ふ、秋芳洞に匹敵する巨大なる洞窟にして幹道の延長一粁半に達し洞床は地下流の川床なるが故に普通流水を見ることあるも旱魃の際には一面の磧となることあり、此際には景清洞口より入りて本洞の北口なる三角田洞口に通過し得らる、秋吉臺には多數の洞窟あるも通拔け得らるるものは本洞と秋吉村の蝙蝠洞あるのみ、本洞には支洞多く未だ探究し得ざる部分あり洞床は出水毎に砂礫の厚層を移動して著しき大變化を爲すを常とするが故に絶へず内部の狀態を異にす、故に此地方の老練なる案内者と雖も「洞内の地理には精通せりと云ふ勿れ」と戒め居れり。景清穴　南瓜岩　龍の拔殼　龍の寢床　賽の河原　蓮華　眼鏡岩　等は洞内の名所なり、就中　龍の拔殼　は延長一〇〇米を超ゆる支洞にして唯一の奇觀なり、景清穴は小支洞にして　敵落し　と呼ぶ小池あり、平家の落武者景清が隱匿せし所と傳へ此名あり、洞口より八〇〇米奥なる　賽の河原　には石造の放光王地藏安置せられ此附近礫石の扁平なるものを積重ねたるもの多數あり、これ愛兒を喪ひたる慈母が亡兒菩提の爲

に塔を組みたるものにして母は闇黑の内に愛兒の嬉遊する有樣を幻視して喜ぶ所として甚だ有名なり。景清洞の北の出口なる三角田洞は洞口より少しく奥に　龍神　と銘したる石柱を建つ、旱魃の際には景清洞口より入りて洞内を通拔け此所に來つて請雨を爲す、洞口の上部なる　猿田の霧吹　は　三角田ポリヱの項に既に之を述べたり。大正十一年十月天然紀念物として指定せられたり

大正洞　景清洞口の西南方二粁なる赤郷村佐山にある最近發見せられたる洞窟にして　高天原二段　極樂　地獄　奈落　の五階より成り數條の竪穴之を縱貫す。本洞の入口内部は昔より　牛隱し　と呼ぶ一室にして百姓一揆又は國内擾亂の際に里民が畜牛を奪はれんことを慮りて此洞内に隱したること有るより此名ありと云ふ、牛隱し　の一部より夏期盛に凉風を吐出す所あるに氣附き此地の人初めて之を探究して大正十年五月遂に大なる洞窟を發見せしものなり、本洞は延長九〇〇米にして到所甚だ變化に富み物凄き深き竪穴及支洞多し、屏風岩　罫縮　蓮池　獅子岩　涓滴岩　等は屈指の名所なり、蓮池は小池なれども恰も蓮葉の如き扁平なる數個の畸形石筍を水面に表はす、池中に豆石及金米糖

と呼ぶもの多數に存在す、是れ小砂を核として周圍に炭酸石灰を附着し漸次大さを增したるものなり、豆石及金米糖は現に成生しつつあるものあり、豆石と呼ぶは球の周圍の圓滑なるものを云ひ、金米糖とは周圍に多數の小突起あるものを云ふ、屏風岩は小支洞にして屈曲二十五回甚だ奇觀なり、涓滴岩とは天井より滴下する水滴が幾萬年を費して岩石を貫きたる小孔を多數有するものなり、本洞は大正十二年三月天然紀念物として指定せられたり

中尾洞 共和村青景中尾山の頂上にある洞窟にして內部は廣濶ならざれども奇觀多きことは他に例を見ず、本洞は大正十年初めて發見せられ直に保護を加へたるものなれば成生物完全なり。洞內は略々五部より成る、即ち 頂の洞 入口の洞 中の洞 奥の洞 底の洞 是なり、洞內變化に富むが故に梯子を或は昇り或は降り觀覽に相當の時間を要す、五重塔 鬼の金棒 大黑柱 迎地藏 天蓋瀧 石瀧 羅生門 金柱 銀柱 等は名所にして其他數十ヶ所の奇觀あり、本洞の特徵は洞床に流水無きが故に多數の石筍を成生せしものにして 鬼の金棒 五重塔 大黑柱 迎地藏 等は其屈指のものなり、五重の塔は高さ二米許の石

筍にして頂端は尖り周圍は巧に彫刻せるが如き美麗なる小鍾乳石附着す、迎地藏は洞床を被ふ粘土上に炭酸石灰の平板を生じ其上に石筍を作りたるものにして容易に洞床より移動し得らる。本洞は成生後大なる地變力を受けたるものならんか巨大なる鍾乳石又は石筍の折れ倒れたるものの斷片甚だ多かりしが洞內に通路を造らんとするとき之を窪地に埋めたり、洞內 ユビナガ蝙蝠 (Miniopterus schreiberii japoniae) 多數棲息し 燒山 と呼ぶ小山は蝙蝠「グワノ」なり。本洞は往昔秋吉臺上の水を吸込みたる穴即ち ポノール なりしが其後地形大に變換して今は中尾山頂に洞口を有するに至りしものなり。大正十二年三月天然紀念物として指定せられたり

白魚洞 赤郷村赤の郷田ポリェの南端なる 碇 にある數個の ポノール にして地下に大なる水溜あるが如きも未だ探究したるもの無し、本洞は平時は沼川 と呼ぶ川水の吸込穴なるも大降雨數日に亘る場合には水は四方より郷田に集つて一面の湖水となり盛に洞內に吸込むも暫く吸込を休止し忽ち洪水を逆に吐出し附近の田園八十餘町歩を一面の湖水と化す、此際洞內より巨大なる多、

數の魚類を出すことありて往々視力に異狀を來たせるものあり、或は稍々白色となりたる　鯉、鮒、鯰、鰻、稀には大なる　鼈　を出すことあれば本洞を白魚洞　と呼ぶ所以なり、洞内より盛に吐水する際には桑園に釣を垂るるもの竹林に網を入れて捕魚するものあるに至る、降雨熄みて兩三日を經れば再び水を吸込むこと元の如し、此地の名稱　碇　とは洪水を意味する里言なり、秋芳洞内を流るる地下流は　白魚洞　に吸込みたる水の流下するものなり

龍宮洞　赤郷村の西南隅なる　植山　にある秋吉臺屈指の奇洞にして洞口前に龍宮を祀る石の小祠あるを以て此名あり、本洞は吐水洞なるも旱魃の際には水枯れて稻作に窮するより里人集まり洞内に入りて請雨するを例とす、本洞は内部頗る廣大なるか如きも未だ其奥を詳細に究めたるもの無し、本洞の甚だ奇とするところは旱魃絶頂に達したるとき突如囂々たる迅雷の如き響を造つて驚くべき勢を以て洪水を射出すること二三時間許にして洞口附近の田園を一面の洋々たる湖水と化し此地を流る川水は暫く逆流すと云ふ、此地方嘗て大旱魃に出遭ひ稻田龜烈するに至りたれば里人集まり神職を先頭として洞内に入り請雨の

途中にして忽ち大地震動し續て囂々たる物凄き響の起るや里人も神職も先を競ふて洞外に走り出でたるも最も後方にありし者は水に浸され辛ふじて溺死を免れたる實例もありと云ふ

兼清洞　別府村兼清にある洞窟にして全延長三六〇米なり、洞口は北に向つて開き幅八米、高さ四米なり、洞内は天井の高さ六―九米なり、洞床は泥土堆積し常に濕潤なれば場所によりては滑ること甚だし、又た洞床は概して平坦なれども場所によりては三〇度若くは四五度の急傾を爲す、洞内　鐘乳石　石筍　石柱　石灰華　等の奇觀を見ること少なし、洞床を流るる小川ありて洞口附近まで流れ來つて淵に流込み地下に吸込むも洪水の時は洞外に流出す、洞内夏期は溫度頗る低く探究者は大に寒冷を覺ゆ、又た凉風を盛に洞口外に送り出し往々洞口より横さまに濛々たる濃霧を吐き出すことあり、本洞の内部入口に近く淵あれば筏を造つて入るにあらざれば探究し難し

鹿の井手の大穴　は赤郷村佐山と共和村青景とを連絡する鎧峠の西麓なる道路より共和村の青景川を距てたる所にありて西方に向つて洞口を開けり、本洞は

赤郷村佐山にある大正洞口の東方少許なる犬ヶ森吸込穴に通ずるものにして洞窟の全延長二粁餘なり、故に犬ヶ森吸込穴に吸込みたる惡水川の川水は洞窟内を流れて大穴に表はる。本洞の入口は大部分川水に浸さるるが故に未だ探究したるもの無きも出水の際、吸込穴内に杉丸太の如き長大なる木材を苦も無く吸込む狀態より推せば甚だ巨大なる洞窟なるものの如し。

ポノール (Ponor)

ポノール とは臺地上を流るる水が地下に吸込まるる洞穴にして現に盛に水を吸込むものあり或は往時水を吸込みたるも地形變換して今は物凄き竪穴となりて水を吸込まざるものあり、竪穴はセルビア語にて ヤマ(Yama)と云ふ、其口徑大なるものは二〇〇米を超へ、小なるものは僅に一—二米に過ぎざれども深さ數十尋又は全く測り知るべからざるものあり、故にポノール の現に水を吸込みつつあるものは地下流の始發點なり、ポノール は概して危險なる竪穴となれるもの多けれども稀に然らざるものあり、著名なるものを撰び左に之を掲げん

釣水 赤郷村の西南隅なる 植山 にある少さき竪穴にして常時は清水を流出し此地方重要なる飲料水となるも夏季に向ひ旱魃するに應じて漸次水準低下し遂に一掬の水も得ること能はざるに到れば釣瓶に甚だ長き繩を附けて水を釣り上げ窟外に出す名高き所なり、此地方に於て其水透明なれば翌日の天候は天氣晴朗を、白濁すれば降雨を豫想す。此竪穴は往古臺地上の水を吸込みて、成生せしポノール なるも地形變換して今は逆に水を吐出するに至りたるものなり

犬ヶ森ポノール 赤郷村佐山大正洞口の少しく東方にある大なる ポノール にして附近に 犬ヶ森 と呼ぶ所あるより此名あり、赤郷村の北方を流るる三角田川 は 三角田ポリエ を流れ 景清洞 の北口なる 三角田洞口 に吸込み 猪出臺下 を潛流すること一粁半にして 景清洞口 より地表に現は

れ　佐山ポリェ　を蜿蜒として流るること二粁餘なり、其流は　惡水川　と呼ばれて流末は口徑六米直下四〇米のポノールに吸込み地下を潛流すること二粁許にして共和村　鹿ノ井手の大穴　より地表に出で西方に向つて流れ厚東川の上流なる　青景川　となる

白魚洞　秋芳洞内を流るる地下流の始發點にして赤郷村植山に發源する　沼川の水を吸込み秋吉臺下を流るること約六粁にして秋芳洞口に表はる、此　ポリェ　に關しては石灰洞の記事中、白魚洞の參照を要す

嵯ヶ穴　岩永臺上にある大なる　ウバアレ　を流るる水を吸込むものにして洞床急傾斜を爲し探究容易ならず

入水　鐵道美禰線於福驛の東方二五〇米の所にある　ポノール　にして　於福ポリェ　の水を集めて吸込むが故に之を　入水　と呼ぶ、此所に三ヶ所の吸込みあれども最も明瞭なるものは中央にあるものにして水を地下に吸込む力を利用して精米に使用す

江原の吸込み　江原は別府村にある　江原臺　の中央にある大なる　ウバアレ

にして底部に近く數十町歩の耕地と數十戸の農家あり、最低部は　穴ヶ窪　と呼び此所に二個の　ポノール　ありて降雨の際には水は集まりて囂々たる響を造つて吸込むも未だ其往く所を明らかにせず

鳩穴　大田町の西隅にある　大久保　は大なる　ドリネ　にして東側には千把焚　大瀧　小瀧　等の絶壁聳ち底部は東より西に向つて緩傾斜を爲し此所に耕地と數戸の人家あり、此　ドリネ　底部西側を沿ふて流るる小川は　鳩穴　と呼ぶ　ポノール　に吸込まれ此地を距たる南方三〇〇米なる　蝙蝠洞口　に表はれ廣谷ポリェ　に流出づ

葛穴　はカヅアナと讀む、大田町の西北隅なる　水溜　にある甚だ大なる　ポノール　の遺蹟にして今は水を吸込まず、此穴は四隣の寂寞なる光景と相俟つて凄然たり、其口徑二〇〇米を超へ一六〇米の底には水量豐富なる大地下流あり て北より南に向つて流る、冬期は往々濛々たる濃霧を吐出すことあり、この地下流は秋芳洞　に表はるるものなり

風穴　秋吉村廣谷の北方臺山上の森林中にある物凄き竪穴にして、此穴は今は水

を吸込まざれども往時の　ポノール　の遺蹟にして夏期盛に冷風を出し或は霧を吐出すことあり、試に巨石を投入すれば暫時の間、側壁に激して落下する音を耳にするを得

市ヶ穴　秋芳洞上の臺山にあるものにして明治初年の頃市兵衛なるもの草を苅らんが爲め臺山に登り誤つて此穴に墜落したるより此名あり、この穴は　ポノール　の遺蹟にして秋芳洞内黑谷に通ず

メクラ穴　赤郷村と共和村との村境を爲す　鎧峠　の頂上に近き所にある物凄き深き竪穴にして　ポノール　の遺蹟なり、此穴は昔、盲目の旅行者が墜落したるが故に此名ありと云ふ

魚の池　伊佐町河原の古町附近にある　ポノール　にして往時は水を吸込みたるものなりしが今は逆に水を吐出するに至り此地方重要なる飲料水なり、旱魃の際には漸次水準甚だ低下す、此水中には魚の棲むもの無きが故に名稱の起る所以を明にせず

チンドロ　は共和村の青景より大田町長登に通ずる路傍にありて口は極めて小

さく草に隱るるが如きものなるも深さ測り知るべからず、其名稱の奇異なるは投下せる石の轉々落下して激する響により此名を得たるものなり

其他多數の　ポノール　及　ポノール　の遺蹟　ありて、其遺蹟は此地方にては竪穴　と呼ばれて人の恐るる所なり、其數は未だ計上したるもの無きも臺山上到所にありて演習地内にても數十口を塞ぎたることあり

地下流

本臺地には地下流到所にありて　ポノール　に吸込みて影を潛め何處に表はるるや知るべからざるものあり、或は何處より來るものなるや明かならざるものあり、又は極めて明瞭なるものもあり

左に主要なるものを撰び掲げん

三角田川　地下流の甚だ明瞭に流向を知り得らるるものにして赤郷村三角田の山間に發源し　三角田ポリエ　を過ぎ　景清洞口の北端なる　三角田洞口　に流込み　猪出臺下　なる　景清洞内　を潛流して同洞口より地表に現はれ　佐山　に出で　悪水川　となりて蜿蜒として地表を流るること二粁夫より　大正洞口　の少しく東方なる　犬ケ森ポノール　に吸込み臺山上なる　石ケ森の地下を流れて共和村青景の　鹿の井手の大穴　に吐出し南流して　厚東川　の上流となり　嘉万ポリエ　を南に向つて流る

沼川　赤郷村植山の山間に發源し　釣水　龍宮洞　の水を併せ東流して　沼川　となり　白魚洞　に吸込みて影を沒し臺地下を潛流して　秋芳洞　に表はれ稲川　となり　厚東川　の上流となる

大久保川　大田町大久保ノ西側を流るる小川にして　鳩穴　に吸込まれ地下を潛流して秋吉村廣谷の蝙蝠洞　に表はれて　秋芳洞　より出づる　稲川　と合流す、此川は名稱無きも　大久保　より發源するが故に便宜上此名を用ひたり

湧　泉

ポリエ　及深き　ドリネ及ウバアレ　の底部には地下流が地表に出口を求めて盛に清水を湧出する所あり、清水を湧出すると共に冷風を吐出し風穴となるものもあり、湧泉は各地に多數ありて一々枚擧に遑あらざれども飲料水及灌漑用水として重要なるものを左に掲げん

鹽瀨　赤郷村　赤ノ郷田ポリエ　の東隅なる　繪堂　の東方一〇〇米許にある湧泉にして盛に清水を湧出す、元煉乳製造所の貯藏場に利用せしことありしか今は酒造用に使用す

涌の池　共和村青景　鎧峠　の西麓に近き田園中にある水面三畝歩許の池にして如何なる旱魃に出會ふも減水すること無く常に盛に湧出し此地方田圃の貴重

なる灌漑用水なり

辨天池　別府村　堅田　辨天祠の傍にあるを以て此名あり、池は四周に鬱蒼たる樹林を繞らし環境甚だ靜かなり、此池は湧水と共に冷風を吐出するが故に夏期は頗る寒冷を覺ゆ、池の面積は二畝歩許にして底部より砂を捲上げ盛に湧出す、其水溫度極めて低く夏期ビール瓶を永く水に浸せば破裂し、ラムネ瓶の玉栓は自然に落つと云ふ、尙ほ池中には　ハヤ　棲息するのみにて他の淡水魚を放ちたるものありしが一として生存せず、石龜を放ちたるものありしが水餘りに寒冷なるが爲め逃げ去れりと云ふ。此池の北方三〇〇米許に　後辨天池　南方五〇〇米に　前辨天池　あり、何れも此地方重要なる灌漑用水なり

白水池　別府村　彌山　の東麓にある灌漑上重要なる湧泉にして洞內より盛に水を湧出し洞口前二畝歩計りの小池を滿たし洞口も水中に溺る、其水乳白色を帶ぶるが故に　白水池　の名ある所以なり、是れ炭酸石灰を飽和せる水が地表に現はれ壓力及溫度變化の結果、炭酸石灰を分離する因るものなり

逆水川　共和村　小野　の北方少許に　逆水川　あり、臺地の麓にある小孔より盛に湧水し西方に向つて流程五〇米にして　青景川　に合流す、旱魃の際には其水逆に流れて　青景川　の水を吸込む、又灌漑用水不足する場合には　逆水川と青景川　の合流點より少しく下流に當る部分を多數の土俵を以て堰止め多量の水を逆水川　の小孔に吸込ましむれば暫時にして逆に莫大の水を吐出し始むるが如き珍奇なる現象あり

大番の池　岩永村岩永本郷にある有名なる湧泉にして其水極めて清澄なれば飲料水及灌漑用に供せらる、旱魃の際には小川に流れ出づる水を多數の水車を備へて田圃に送る

イヅノ池　大番の池の北方少許の所にある大湧泉にして　岩永本郷　の重要なる灌漑用水なり

法盛の池　伊佐町の東北方少許なる臺山麓にある湧泉にして如何なる旱魃にも渴水すること無し、旱魃に當り伊佐町內の井戸悉く枯渴するに至れば町民は陸續として此湧泉に來りて飲料水を汲み取る

鳥の水　**女郎水**　**鳥の水**　は大田町平原の西北方なる臺地上にあるものにして

其水清透なれば臺地上貴重なるものにして小鳥の集まり來るもの多きが故に此名ありと云ふ。女郎水　は大田町長登の西北約一粁なる　長者ヶ森　の西方二〇〇米の所にある小さき　ドリネ　の底より湧出するものにして其水少しく濁れるを遺憾とす。何れも演習地内にありて重要なる飲料水なり

其他鐵道　美禰線重安驛　の南方にある　舛水、秋芳洞に近き　溫水　臺地上の　歸水　等多數あれども略す

カレンフエルド　(Karrenfeld)

カレンフエルド　とは車轍狀の意味にして廣大なる石灰岩の表面か流水の浸蝕作用を受けて岩面に多數の溝を作り漸次深さを增し遂に石柱の行列を作るものを云ふ、然れども永き年代を經て其溝は縱横に交叉するが故に其石柱林立の奇觀を呈するに至る、秋吉臺は甚だ老齡期に到達するが故に其石柱は石灰岩の分解せる赫土中より尖端を突出す、石柱の面にも略々垂直に近き多數の小溝を有するを普通とす

石柱の高さは二米より四米許にして何れも稜々たる岩角を表はし尖端槍の如く又た劍の如く尖がれるもの林立して劍の山を想はしむるものあり或は怪獸の奇を鬪はし怪を競ふが如き形態を爲せるものもありて實に壯觀なり、石柱の面は實に粗惡にして不意に手足を觸れんか忽ち負傷し、衣服之に觸れんか苦も無くかき裂かるる程なり、其石柱は整然たる行列を爲すものあれども多數の行列縱横に交叉し入亂れて石柱林立の狀態を呈するを普通とす

カレンフエルド　の　カレン　の方向は　ドリネ　又は　ウバアレ　ポリエの底部に向へる傾斜面に發達するもの最も著しく、河に幹流、支流あるが如く小規模の數條の　カレンフエルド　が相結合して大規模のものを造る所あり、或は大なる　カレンフエルド　より數條の小規模のものに岐るるものあり、或は高

地の頂上より八方に向つて　カレンフエルド　を表はす所あり、或は分水嶺の如き狀態を爲すものあり、又た往々　カレンフエルド　に沿ふて小地下流を表はすものあり、其最も顯著なる地域に就き左に之を掲げん

地獄臺　は秋吉臺の北端に近き所にありて共和村青景の東端と赤郷村との境界に接する　歸水地溝帶　の西側傾斜面一帶の地域を云ふ、本臺地は西方に高く海拔四〇〇米にして漸次東方に下り傾斜を爲せる面積五十三町歩の一地域にして　大シブリ　と呼ぶ大なる　ドリネ　を中心として五十三個の大小　ドリネ　散在し　カレンフエルド　縱横に交叉錯雜し石柱の數無慮二十二三萬本に達し實に壯觀を極む、地獄と呼ぶは旅人若し此臺地中に迷ひ入ひらんか林立する石柱に妨げられて容易に脫出すること能はざるの意なりと云ふ。地獄臺の石柱は殆ど全部　フヅリナ　の化石より成りて其發育の狀況極めて明瞭なり、本臺地は夏期は高さ一、二米の雜草一面に繁茂するが故に石柱を表はすこと少なければ初春、火入れを爲したる後ち、即ち、三、四、五の三ヶ月間は石柱の全部を明瞭に表はし甚だ壯觀にして探究上の最好時期なり

本臺地は昭和三年二月天然紀念物として指定せられたり

石ヶ森　赤郷村の西端なる共和村との境に接する地域を　石ヶ森　と呼ぶ　カレンフエルド　の極めて良く發達する地にして東方に高く西方に低く傾斜し地獄臺　と相對し大規模なること是に劣らず、石ヶ森　とは極めて好適なる呼稱と云ふべきものならん

棚岩　秋吉村の北端なる　鬼穴　の東側にある　カレンフエルド　の發達する一地域なれども規模狹小なり、此所に小地下流ありて岩柱の間より湧出す

馬コロビ臺　棚岩の東方一粁許の所にある平坦なる地域にして　カレンフエルド　の高さは一米前後にして大部分草葉に隱る、若し此所に馬を曳入るれば石に躓きて倒るるの意より此名ありと云ふ

其他　カレンフエルド　は臺地上到所に其發達するもの有りて到底枚擧に遑あらず。

鑛物

石灰岩は他の迸發岩と接觸して輝石　柘榴石　硅灰石　等の接觸鑛物を造る故に是等の鑛物は秋吉臺には到所に存在し大なる美晶を見ることあり、又た臺地上には露天化作用に依り良質の滿俺を出したる所あり、例へば赤郷村佐山及大田町大久保の如き是なり、石灰岩の分解せる粘土中より褐鐵鑛の巨塊を出したる所あり、即ち大田町長登北平鐵山及於福臺の如き是なり、臺地及臺地の四周には古來鑛山極めて多く天平年間、奈良大佛の銅料を出したる長登鑛山ありて其地に「奈良上リ」今は轉訛して長登の名を殘せり、其他大田鑛山よりは自然銅　赤銅鑛　硅孔雀石を、鳥帽子鑛山よりは輝コバルト鑛　コバルト華　コバルト土を發見し精煉し又は原鑛を其儘粉末となし珐瑯鐵

器の染劑に使用す、其他大切鑛山　大美禰鑛山　藥王子鑛山　於福鑛山　金ヶ原鑛山　經塚鑛山　穴ヶ窪鑛山　等あり、大切鑛山よりは黃銅鑛を、大美禰鑛山よりは硅亞鉛鑛　菱亞鉛鑛を、於福鑛山よりは黃銅鑛　柘榴石　銅重石を、經塚鑛山よりは硅灰鐵鑛が斜方十二面體の柘榴石の假晶を爲したるものと犬牙方解石を出したることあり、穴ヶ窪鑛山より出せし銅は赤郷村錢屋にて寛永錢鑄造の料に充てたることあり、臺地東北部に於ける大田町長登の花の山は石灰岩を迸發する花崗岩にて構成せられ、之を繞りて前述の長登鑛山　鳥帽子鑛山　大田鑛山　大切鑛山　其他天平以來千有餘年の間、採鑛せる無數の舊鑛山あるは注目すべき地域なるべし

嘉万ポリエは中生層にて被はれ其地層中に亞無焰炭の薄層を夾在す、嘗て採堀に從事したることありしが採算困難に陷り放棄したることあり、嘉万の北方一粁許なる國信に於ては石英斑岩中に石墨の小片を包含する所あり、是れ石英斑岩が迸發の際石炭を撈取して石墨を造りたるものなり。

特産物

秋吉臺の特産物を擧ぐれば左の如し

大理石　明治九年笠井順八氏秋吉村經塚山より出づる雪白色の石を採收し時の工部卿井上馨氏に送り同省の鑛山技師たりし佛人デニュー氏に鑑定せしめ大理石なることを知り、翌十年笠井氏資を投じ是が採堀に着手し假工場を設けて碁石、金魚鉢、硯等を加工し京阪地方に販路を求めたるも工業智識の幼稚なるが爲め數千圓の缺損を生じ同廿五年事業を中止するに至れり、翌廿六年伊佐の井上氏事業を繼續したりしが是れ亦た數千圓の缺損を生じて頓挫し、次で萩、小川氏代はりて規模を擴張せしも收支相償はず、越て卅五年の春、本間俊平氏之を聞き小川氏と交渉の結果、工場を讓受け同年七月より着手する等、種々の曲折に遭遇せしが其後電氣事業の勃興と共に配電盤の需要增大し歐洲戰亂の際には獨逸

より石版石の輸入杜絶したるより其代用品として使用せられ、次で西洋式の建物の增加と共に建築用石材として用途廣まれり、現在は主とし石材の儘、縣外に輸送するもの多し。大理石の淡灰色のものを　杜鵑、暗黑色のものを　薄墨　と稱へ、鐘乳石又は石筍より得たる赫色を帶ぶるものを縞瑪瑙の意味にて　オニックス　と呼ぶ。石材の集散地は鐵道美禰線　伊佐驛以北於福驛　の間の各驛なるも最も盛なるは　重安驛　なり

石灰　石灰岩は鷄卵大に破碎し此地產の無煙突と交層に石灰窯に入れて火入を爲して燒くものなるが故に原料豐富なると燃料を容易に得らるる爲め秋吉臺に關係する各地は到所に石灰の產出ありて此地方の重要物產なり、秋吉臺に於て其事業の最も盛なるは　伊佐町　大嶺村　は其首位を占む

牛蒡　秋吉臺に於けるドリネ　ウバアレ　ポリエ　等の底に於ける重粘土の耕土は深く、降雨毎に八方より流込む枯草は堆積して腐敗し土地極めて肥沃なれば牛蒡栽培に最も適當し甚だ良質のものを產出し秋吉臺關係地方に於ける重要なる農產物なり、往時大田町を集散地としたるが爲め　大田牛蒡　の名あり、

明治廿七八年日清戰爭の際には其筋より大部分買上げられたることあり

千振　苦味强き藥草として知らるるセンブリ（Swertia japonica）は秋吉臺山到所に生育し此地方の特產なり、秋期開花時には此地方の兒童は登山して之を採收乾燥し集めて販賣す、其量實に莫大なれども近時化學藥品に壓倒せられて販賣意の如くならざるが如し

其他秋吉臺には部分的に特產物あれども產額大ならず。

臺地探究の準備

秋吉臺を探究せんとするには少しの準備を要す

本臺地は前述せるが如く東西一四粁、南北一二粁の地域を占め九ヶ町村に跨るものにして到所略々同一地貌を有し小徑、縱橫に交叉錯雜するが故に此地方の人と雖も少しく遠隔の地に到らば地理に精通せざるが故に途を踏迷ふこと尠なからず況や初めて臺地に登り單身之を踏査せんとするが如きは冒險も甚だしきものにして登山に當りては充分地理に精通する案內人を傭ふを第一の條件とす、臺地上には深さ測り知るべからざる驚くべき竪穴多數ありて、其小なるものは草葉に被はれて穴の所在全く不明なるものあり、人の墜落して全く消息を絕ちたるものあれば甚だ注意を要す

臺地上稀にドリネの底より湧水を見るもの有りと雖も臺地探究の途中に於て之を求むることは到底不可能なれば登山に當りては一回分の食料と共に必ず水筒を準備し少量の清水を携帶するを要す、カルスト地方の水は大部分地下流となり地表に於ける湧水は甚だ稀なるが故に普通登山よりも一層渴を覺ゆることあるに留意せざるべからず、特に夏期に於ては一層必要を感ず、日々ドリネ底部の耕地に往復する農夫と雖も決して水を手放すが如きことなし

臺地に登るには先づ陸地測量部の地形圖を携帶すれば僅に參考となるべきも案內人無くして地圖のみに據らんとするが如きは危險なり、案內人と雖も臺地上

にて霧に包まるるが如きことあらば目標とする遠山を認むること能はず方向を誤ること無きにしもあらず。

探究の道筋

秋吉臺の詳細を究めんとするには少なくとも數日を要するも若し強て一日間にて概要を知らんとせば

㈠鐵道美禰線於福驛に下車し自動車三十分間にて嘉万に到着し青景にて案内人を傭ひ天然紀念物中尾洞の附近を過ぎ黒岩より臺地に登り香合の大ドリネ、チンドロと呼ぶ深き竪穴及秋吉臺上最も壯觀を極むる天然紀念物地獄臺を見て長者ヶ森の西方に向ひ長ヂャクリ、鬼穴、ャナ穴、鷹穴等を見て秋芳洞を探勝し小郡驛、吉則驛又は大田に出づるを可とす、又は長者ヶ森より長登に出で自動車にて萩驛、小郡驛又は山口に向ふべし

㈡鐵道山陽線小郡驛に下車し自動車一時間許にして長登に到着し案内人を傭ひ臺地に登り長者ヶ森の東側を通り地獄臺を見て共和村の青景に下り嘉万より自動車にて於福驛に出つるか又は地獄臺より南に向ひ秋吉に出づるを可とす

㈢鐵道美禰線吉則驛に下車し自動車にて伊佐に赴き夫より徒歩にて河原に出で通山、奥河原、入見、江原を經て竪田の湧泉を見て於福驛に出づるか又は竪田より秋吉に出で小郡驛又は萩驛に出づるを可とす

二日間にて概要を知らんとせば

㈠早朝美禰線於福驛に下車し自動車にて嘉万に行き天然紀念物中尾洞を見て夫より鎧峠を越へ赤郷村にある天然紀念物景清洞を探究し同村宮ノ馬場に宿泊し翌朝は天然紀念物大正洞を見て秋吉臺山に登り天然紀念物地獄臺より南に向ひ鬼穴、長ヂャクリ其他の大ドリネを見て秋吉に出で自動車にて吉則驛又は小郡驛に向ふべし

㈡鐵道美禰線重安驛に下車し秋吉臺山より採堀せる大理石材の集散狀況及小野

524
675

田セメント會社石灰採掘の狀況を見て於福臺に登り江原の大ウバアレ及ボノールを見て北方に向ひ別府村堅田の湧泉辨天池を見て嘉万に出で宿泊し翌朝同村青景の中尾洞を見て黑岩より地獄臺に登り長者ヶ森より長登に下るか小郡驛又は萩驛に出づるか又は秋吉に下るを可とす。（終）

昭和十三年三月三十日印刷
昭和十三年六月三十日發行
（非賣品）
發行所　山口縣
印刷所　山口縣廳印刷所

524
575